

## インクジェットヘッドユニット

ヘッド・コントローラーを自社装置に組み込み

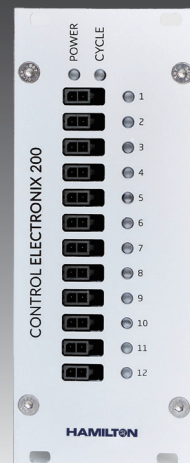
### 吐出実績例

- 金属ナノ粒子液
- 細胞懸濁液
- 有機半導体溶液
- たんぱく溶液
- 高分子溶液
- 抗体溶液 など

ディスポ



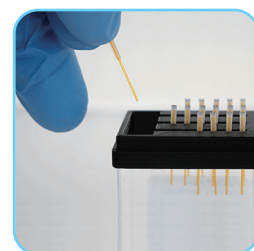
インクジェットヘッド



ヘッドコントローラー

### 特徴

- 1 自作の実験装置・生産システムへの組み込み
- 2 ピエゾ方式でナノリットルの液滴をデジタル制御
- 3 ディスポーザブル構造により洗浄不要・低ランニングコスト
- 4 液非加熱で400mPa・sまでの高粘度液に対応
- 5 最少必要液量 0.01cc以下



使い捨てチップ

高粘度  
400  
mPa・s

最少  
必要液量  
0.01cc

### 用途例

- DNA、タンパク、抗体、試薬のナノリットル分注
- 細胞液、ビーズ液の分注
- フラックス、接着剤、UV硬化液の吐出

**HAMILTON**  
製造元 Hamilton Freiburg GmbH

※液によって安定吐出ししない場合があります  
※写真と実際の装置は異なる場合があります  
※仕様は予告なしに変更することがあります



# インクジェット吐出実験キット PJH シリーズ 概仕様

機種名	PJH-200
用途	液の吐出実験
装置構成	PipeJet、コントローラー、専用アプリケーション
搭載ヘッド	PipeJet ノズル径: 125、200、500 $\mu$ m
ヘッド駆動条件	吐出量、発数など（外部トリガー入力で吐出指示可能） ※専用アプリケーションで詳細設定も可能
吐出液滴量	2~70nl/滴、最大周波数 100滴/秒 ※ヘッド種類や使用する液種による
適応粘度範囲 ※注1)	0.5~400mPa·s ※ヘッド種類や使用する液種による
液滴観測機能	なし
吐出液	DNA、タンパク、抗体、細胞液、バイオマテリアル、 インク、高分子液、ナノ粒子液(Au、Ag)、水系、油系、溶剤系など
クリーニング	マニュアルによる加圧 回復しない目詰まり時はパイプ部のみ交換
電源	AC90~240V 50W ※PC電源は除く
使用環境	15~30°C 20~70%RH(結露なきこと)

## 搭載ヘッド

ヘッド種類	特徴	ヘッドヒータ	適応粘度[mPa·s]	吐出液滴量[nl/滴]
PipeJet	デイスポーザブル、大滴吐出	無	0.5~400	2~70

0625

※注1) 液種によっては安定吐出できない液があります。

※液滴量により適応粘度目安は異なります。

※上記仕様は予告無しに変更することがあります。